

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	栃木県	事業実施主体	栃木県、那須塩原市	地域再生計画名	那須塩原市「ウェルカム なすしおばら 選ばれしまちへ」
計画期間	平成２７年度～平成３１年度	評価責任者	那須塩原市建設部長 稲見一美		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価		
			基準年度		年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	核となる定住エリア人口の増 （那須塩原駅土地区画整理地区）	1,880人	H26	1,940人	H29	2,065人	2,010人	H31	○	那須塩原駅土地区画整理地区周辺の道路整備によって、定住エリアのより一層の利便性向上が図られ、人口増の目標値達成に繋がっている。	
	指標 2	観光客入込者数の増	979万人	H25	1,020万人	H29	936万人	1,077万人	H31	△	事業着手以降、観光客入込者数は順調に伸びていたが、観光シーズンにおける台風等悪天候の影響により、中間年度において減少に転じ目標値を下回る結果となった。そのため、事業については、引き続き目標値達成に向けて着実に進めていただきたい。また、学識経験者から、数値の算定に画一されたものがないため、観光客入込者数は指標には適さないとの意見があったことを申し添える。	
	指標 3	林道危険箇所の解消	17箇所	H26	7箇所	H29	8箇所	0箇所	H30	△	着実に危険箇所数は少なくなっているものの中間年度では目標値を若干下回っている。危険箇所数の解消は、安全な通行に必要不可欠であることから、最終目標値の達成に向けて計画的に取り組んでいただきたい。	
	指標 4	間伐実施面積の増	0ha	H26	0ha	H29	13ha	10ha	H31	○	整備林道沿線において、間伐が行われたことで大幅に中間目標値を超えており、着実に成果が上がっている。	
	指標 5	保全対策推進率	0%	H26	0%	H29	1%	5%	H31	○	中間年度末において、林道橋全数の点検診断が完了しており、目標値を超えている。	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	－										
	指標 2	－										
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度 (H29)	最終実績 見込み							
	特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）		17.9km	9.2km	11.9km	用地の取得を優先的に取り組んできたことやその交渉に相当の時間を要したことから、現段階における整備量自体は低調であるが、今後は工事中心の事業展開となることから、整備量の増が見込まれる。引き続き事業に取り組んでいくことで整備量を着実に増やすべきである。					
		林道整備事業（整備延長）		4.4km	0.3km	0.5km	危険箇所の解消により整備を進めているが、林道開設については、猛禽類調査、保全対策検討などで工事開始時期の目途が立っていない。そのため林道開設の整備延長が伸びていない。					
	その他の事業	(1)黒磯駅周辺地区都市再生整備計画事業		都市再生整備計画により黒磯駅東口広場、（仮称）駅前図書館及びまちなか交流センターの整備を行い、街の魅力向上にぎわいの再生及び快適な生活と滞在が可能な都市環境の形成を図る。			関係機関との調整に時間を要した影響で、（仮称）駅前図書館及びまちなか交流センター建設の進捗に遅れがみられるものの、黒磯駅東口広場の整備は、概ね順調に進捗しており、着実に中心市街地の再生整備が図られており、魅力向上にぎわいの再生を図るため、引き続き事業を実施されたい。					
		(2)那須塩原駅周辺地区の整備		那須塩原駅東西口広場の再整備や西口前通りである東那須野大通り線の電線地中化と歩道整備及び地区内公園の整備などを行い核となる定住エリアの那須塩原駅周辺地区の拠点性の強化と良好な生活環境の確保及び利用者の向上を図る。			那須塩原駅西口に市役所の新庁舎建設を予定しているが、東京オリンピック等による資材の高騰の影響を避けるため、オリンピック後の着工としているところである。広域拠点である那須塩原駅周辺地区の整備は、本市の拠点となる新庁舎建設と一体不可分であることから、今後、新庁舎建設の進捗に合わせて整備を図られたい。					
		(3)新庁舎の建設		広域拠点地区であり、また核となる定住エリアの那須塩原駅周辺地区に新庁舎を建設し、広域拠点地区の拠点性を強化するとともに市民の利便性向上を図る。			本市の新たな拠点となる新庁舎建設については、東京オリンピックなどの影響による資材の高騰や合併特例債の発行可能期間の延長を踏まえ、東京オリンピック後に着工に向け、平成30年度に庁内に新庁舎建設準備室が設置された。広域拠点であり、核となる定住エリアの那須塩原駅周辺地区にふさわしい庁舎となるよう市民の意見にも耳を傾けながら事業を進められたい。					
		(4)新幹線通勤助成事業		那須塩原駅から新幹線を使用して通勤する市民に対して定期代の一部を助成することにより、市外から転入者を呼び込んで定住の促進を図る。			平成26年度から実施している新幹線通勤助成事業については、当初2人のみの利用だったものが、平成29年度現在17人が利用するに至っている。本事業は、市外から転入者を呼び込むことに一定の効果を発揮したと認められることから、今後も引き続き実施されたい。					
		(5)地域バス運行事業		交通拠点の鉄道駅に接続する那須塩原市地域バス「ゆーバス」や「予約ワゴンバス」の運行により、市民の市内外へのアクセス向上及び市外からの来訪者の移動の支援を図る。			駅利用者のアクセス利便性の向上を図るため、駅と市街地等を結ぶ那須塩原市地域バス「ゆーバス」について、より利用が促進されるよう時刻表の見直しを行うなど運行の充実を図ってきており、地方都市特有の交通事業である駅利用者等の市街地へのアクセス、或いは市街地から駅へのアクセスの不便解消に一定の役割を果たしていると評価する。平成30年度において、「予約ワゴンバス」を見直し、「ゆータク」の運行を開始しているが、その制度の運用も含め、今後も的確に需要をとらえ、きめ細やかな対応を図られたい。					
	計画外で独自に実施した事業											
④評価方法	学識経験者等第三者から意見を聴取し、那須塩原市施策評価会議を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
⑤中間評価の公表方法	那須塩原市のホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画は、市道及び林道の一体的整備と、那須塩原駅及び黒磯駅周辺地区の整備実施による相乗効果を発揮することで、定住を促進し、持続可能な活力あるまちを構築しようとするものである。市道整備については、用地取得を優先的に進めたこと、また、林道開設については、猛禽類調査、保全対策検討等により、当初計画よりも整備量が少ない状況となっている。今後は、市道の整備工事と林道の危険箇所の解消整備とを一体的に取り組むことで、核となる定住エリア人口の増加や観光客入込者数の増加に寄与するものと考えられる。また、その他の事業として、那須塩原駅及び黒磯駅周辺地区の整備については、関係機関との調整や資材の高騰など外因的要因により、当初計画よりも進捗に遅れが生じているが、課題が概ね解決されれば、整備の進捗が大幅に見込め、新幹線通勤助成事業や地域バス運行事業を併せて実施することで拠点性の強化が図れ、一層の定住促進が期待できる。											
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、一部に当初計画からの遅れが生じているものの、定住人口が目標値を達成するなど、着実に成果を上げている。しかしながら、一部の指標については数値が伸び悩んでいることから市道及び林道の整備を引き続き推進していく必要があり、そのためには、地域再生計画の期間の延長を図る必要がある。また、林道花取線については、希少な猛禽類の関係で工事開始時期の目途が立たない状況を踏まえ、整備路線からの削除が望ましい。											